



じょく そう 褥瘡対策チームの取り組み

皮膚排泄ケア認定看護師 福永 晶子

褥瘡とは、いわゆる「床ずれ」のことです。長時間同じ姿勢で全く動かすことによって生じます。褥瘡対策チームでは、入院中に褥瘡が発生しないように、また、入院時すでに褥瘡がある患者さんに対し褥瘡が悪化しないように取り組んでいます。

具体的な取り組みとしては、看護師が全入院患者さんを対象に褥瘡ができやすいかどうかを入院時と患者さんの状態が変化した時に判断します。判断した結果、褥瘡発生の危険性がある場合、もしくは既に褥瘡が発生している場合には看護計画を立て

対策を行います。

対策としては、皮膚と接するマットレスを適切に選択します。他にも、体を起こしたり動かした時に起ころう皮膚のずれが褥瘡の発生につながるため、背抜きといって皮膚のずれが起こっている部分に手を入れ、それを解消する看護ケアを行っています。

褥瘡対策チームでは、適切なマットレスの選択や褥瘡ケアに必要な看護ができるか、適宜病棟をみまわり看護師の知識・技術の向上に取り組んでいます。

院内で働くスタッフの紹介バトンリレー! スタッフ紹介



東6階病棟 看護師
杉野 善彦さん

1. どのような仕事をしていますか?

救急科病棟である東6階病棟で看護師として勤務しています。緊急入院の対応や、入院中の患者さんが安心して療養に専念できるよう日常生活の援助をさせていただいている。

2. 頑張っていることはなんですか?

より良い看護サービスを提供できるよう患者さん1人の声に耳を傾け、安心・満足いただけるように努めています。まだまだ未熟な部分が多いので、毎日患者様や先輩方から多くのことを学ばせていただいている。

3. 趣味・特技は何ですか?

映画やドラマを見るのが好きで、休みの日には1日中観つづけていることもあります。

4. 自分の性格は?

マイペースだと思います。もっとしっかりないと!とよく思います。

5. これから挑戦したいことは?

よく体調を崩すのでしっかりとした自己管理をしていきたいです。できればスポーツも始められたらと思います。

6. 最近うれしかったことは?

患者さんが退院される際にお礼を言ってくださったことです。また頑張ろうという元気をもらいます。

7. 今、困っている事は?

毎日寒いので、気を付けてはいるのですが体調を崩してしまわないか困っているというより心配しています。

8. 患者さんに何かひとことお願いします。

不安や困ったことがあれば、どんな些細なことでも構わないでご相談ください。1つ1つの声に対応できるよう努力していきたいと思います。

9. 次にどなたか紹介してください。

優しい雰囲気と親切な対応で患者さんやスタッフからとても信頼されている薬剤課横松さんを紹介します。

編集
後記

冬は感染症の季節、予防対策は万全ですか?毎年冬になると流行しやすい感染症(インフルエンザやノロウイルスなど)があります。これらの感染症から身を守るために、まずはうがい手洗いなど、日常生活での予防対策が不可欠です。早めの対策で感染症を予防しましょう。

東4病棟 看護師 安永 まゆみ

やはた病院 ニュース

北九州市立八幡病院広報誌 第42号

2016年1月27日発行 発行・編集:八幡病院広報委員会

白内障について

眼科主任部長 板家 佳子

白内障とは

目の中の水晶体(カメラでいうレンズ)が濁る病気です。

目のかすみ、まぶしさ、視力低下がおこります。ふつうは加齢によるものですが、外傷、アトピー性皮膚炎が原因になることもあります。

白内障のための点眼はありますが、進行すれば手術です。

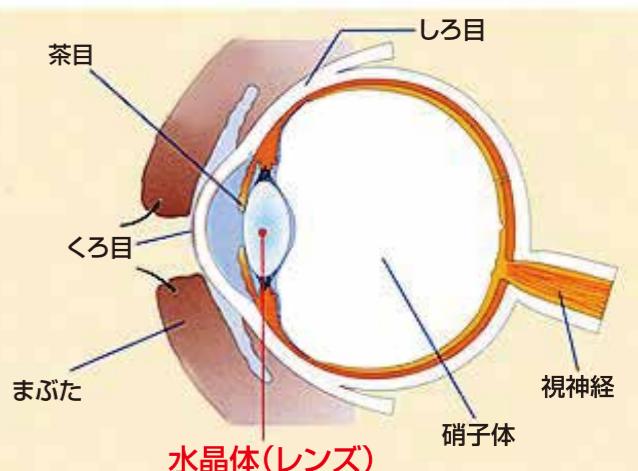
手術のタイミングは?

ご本人が今の状態で困らなければ、手術はまだよいと思います。ただ、あまりにも、水晶体が濁って硬くなつてくると、小さな切開で行う超音波の手術が難しくなります。

また、水晶体が濁るだけでなく、膨化して(膨れて)くると、目の中の房水がつまって、急性緑内障発作になる場合がありますので、その兆候がある方には、早めの手術をおすすめします。

因みに急性緑内障発作がおこると、ひどい頭痛、吐き気に加えて、目の痛み、かすみがでてきます。

眼球断面図

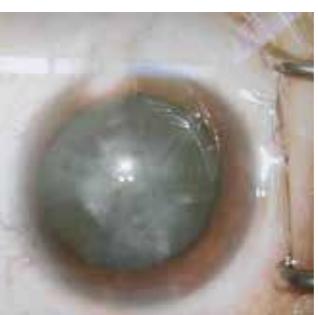


手術について

濁った水晶体の中身(核と皮質)だけ、超音波でください吸引し、周りの水晶体を包んだ囊(ふくろ)の中に人工の眼内レンズをいれます。体つき、顔つきが違うように、目の大きさも人によって異なります。よって、眼内レンズもその方にあったものを使用します。

また、手術前の近視、遠視の状態を考えながら、眼内レンズを選んでいきます。

点眼麻酔で、15分前後の手術です。当院でも手術をおこなっています。なんなりとご相談ください。やさしいスタッフがお待ちしています。



手術前

手術後(レンズ挿入)

高齢者・乳幼児・若い女性に多い

低温やけどにご注意を

形成外科主任部長 田崎 幸博



消費者庁によると、2015年9月までの6年間に、65歳以上の高齢者が低温やけどを負った事故情報は計119件寄せられた。うち10件は入院が必要で、こたつで就寝して重いやけどを負い、足の指2本を切断した70代男性もいた。

原因別でみると、カイロが28件と最多。以下、湯たんぽ(19件)、ストーブ類(18件)、電気毛布とあんかが、それぞれ12件だった。

(2015年11月19日付け時事通信より)

低温やけどは、比較的低い温度の熱に長時間接触することで、熱さを感じないままに皮膚の深くまでじわじわ熱が伝わり、気付いたときにはすでに深いやけどを負ってしまっているというものです。

高温の熱に接触した場合は、一瞬で気付くため、すぐに離れたり、水で冷やしたりできますから、損傷が比較的浅くて済みますが、この低温やけどでは、赤くなったりひりひりすることに気付いた時点で、すでに深くまで損傷しており、もはや水で冷やしても効果はなく、見た目よりも重症で、翌日には水疱ができたり、壊死して白く変色したりしています。

軟膏や創傷被覆材による治療だけでは済まずに、皮膚移植などの手術が必要になることが多くなります。



湯たんぽによる足の低温やけどを皮膚移植で治療

むしろ心地よい温度ともいえる44°Cでも3~4時間、46°Cでは30分~1時間、50°Cでは2~3分で皮膚が損傷を受けると言われていますので、あまり熱くなくても長時間同じ部位に当て続けることは避けなければいけません。

就寝時にアンカや湯たんぽなどを使用する際は、寝具が温もつたら、寝る前に外しておきましょう。

報道にある高齢者だけでなく、自分では動くことができない赤ちゃんにファンヒーターやホットカーペットを使った場合や、若い女性を中心とした湯たんぽブームも低温やけどの原因となっています。

その他、糖尿病や脳梗塞などの持病がある方や、飲酒や睡眠薬の影響で、感覚や動きが鈍くなっている場合も注意が必要です。

??



知っておきたい感染症・感染対策

No.21

乾燥と感染対策

ICT委員会
感染対策チーム

冬は乾燥が気になる季節ですね。空気が乾燥すると、私たちの鼻やのどの粘膜が傷つきやすくなり、風邪やインフルエンザ、気管支炎や肺炎などの感染症をおこしやすくなってしまいます。適切な湿度は40%~60%と言われていますが、冬場は10%台になることも多く、インフルエンザなどのウイルスは、乾燥に強いため注意が必要です。

乾燥予防対策として、外出時はマスクの着用と水分補給、室内では、加湿器の使用が効果的です。枕元に濡れたタオルを掛けたり、水の入ったコップを置いておくなども効果があるようです。適度な湿度を保って、冬の感染症を予防しましょう。

